



2023年  
5月31日  
発行

日本山岳会

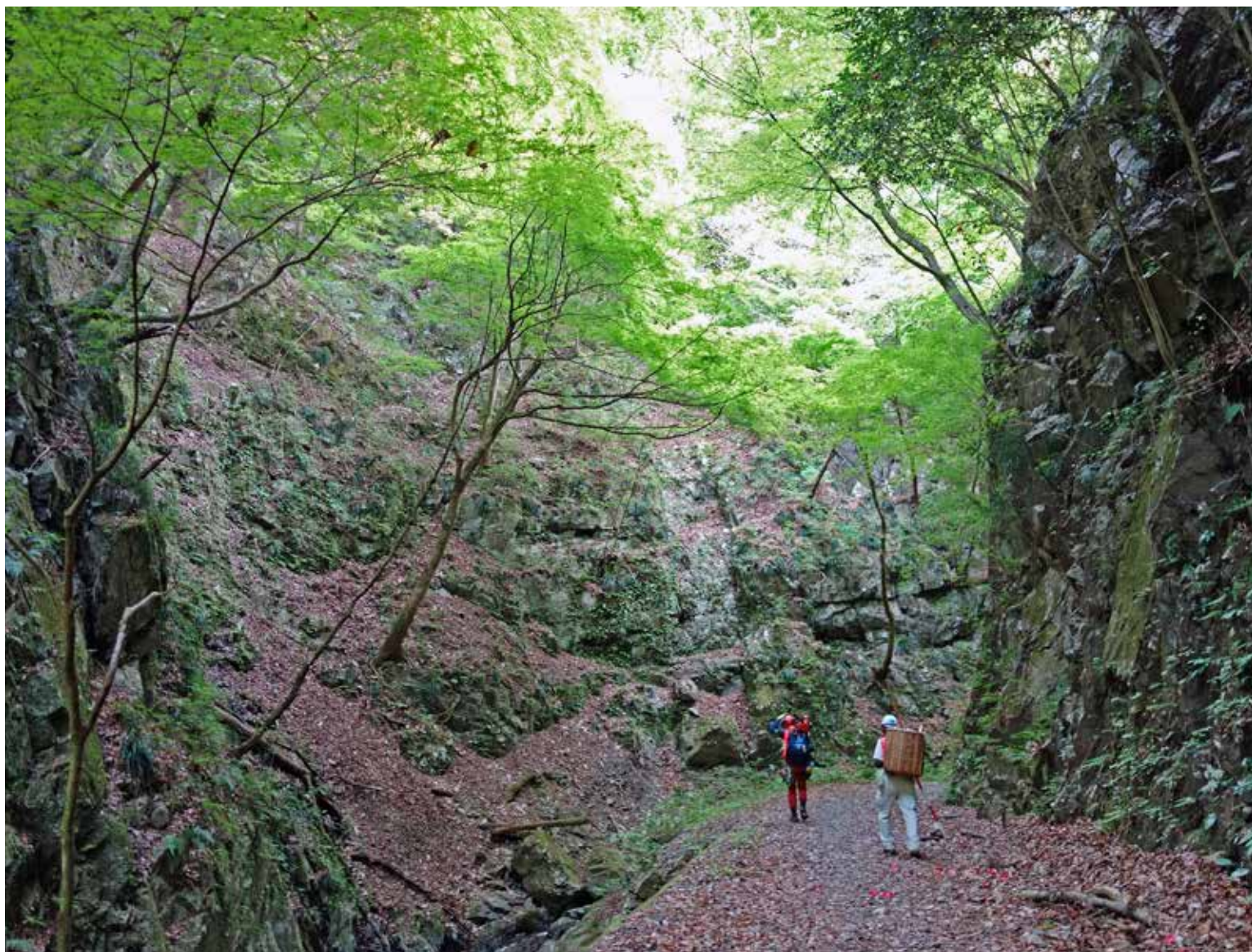
# 「高尾の森」通信



— 広針混交の豊かな森づくり活動 —

会員数：168名  
(2023年4月末現在)

森に生命力が溢れるこの季節、  
あたたかな陽ざしをあびて森はやさしい緑につつまれます。  
さあ出かけよう、新緑の中で心も身体も生まれ変わる、  
そんな感覚を求めて。



## ハンミョウ

本州から九州、対馬、屋久島に分布。

体長約 20mm で、上ばねは黒紫色で赤銅色の横帯と白色の横紋があり、  
日本に生息する最も美しい甲虫。日当りのよい砂地や道路に多く、  
人が歩くと先へ先へと飛んでは止まるのでミチシルベ、  
ミチオシエともよばれる。

絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>





コロナの冬から春への幕開け

フィールド担当 早川憲也

# 「春の植樹祭」実施報告



富士電機の皆さん



グローリーの皆さん



ささえあの皆さん



トヨタ C & D の皆さん



4月を待たずに桜が散り始めるという例年になく早い春の幕開けとなった2023年春は「コロナの冬！早く明けて欲しい」と言った皆さまの熱い気持ちが春を早めたのでしょうか。今年3月13日からはマスクの着用が個人の判断となる等、制限がある程度緩和された事もあり、当初の予想を上回る参加申し込みを頂きました。

今回の植樹祭は、昨年7月に発足した大塚代表率いる新体制による初めての植樹祭のため、諸先輩方から色々なご心配やご意見を頂きながらのスタートでした。準備に当たっては、2019年の台風19号の被害により未だ開通しない林道の制約、徒歩による現地集合、鹿柵・ツリーシェルターの設置、上下作業防止の時間差作業、仮設トイレ、開会式の実施場所等、新たな課題も沢山ありましたが、一番の課題は7年のブランクにより植樹祭経験者が減少していたことでした。

準備の終盤で、急遽「定例作業の日にリハーサルをしよう」との意見が挙がり、私は新年度最初の定例作業をやめることに躊躇しましたが、皆様の意見を尊重しリハーサルを実施しました。いざ実施してみると思わぬ出来事が色々発生し、今になって振り返ってみるとリハーサルというものを通じて植樹祭を2回も楽しめて、更に会員の植樹経験値も高くなったと思います。

植樹祭当日は前日までの怪しかった天候が一変し、雲一つ無い晴天の中、法人会員37名、一般参加4名を含め総勢95名の参加者によって8種類、180本の植樹を実施することが出来ました。

植樹の後はベースにてキッチン班による豚汁、山菜の天ぷら、伊藤ハム様ご提供の粗挽きウィンナー、ささえあHD様ご提供の菓子類等々を堪能しながらの懇親会、そして横川コレクション、物づくり班の展示即売会も復活し積もる話に花を咲かせていました。

最後に参加者皆様の笑顔と、準備してきた多くのメンバーに感謝いたします。「ありがとうございました」

C班 エリア			
ヤマザクラ 25本		クリ 23本	
A1班 エリア		B1班 エリア	
オオモミジ 25本	イタヤカエデ 10本	イタヤカエデ 10本	コナラ 25本
A2班 エリア		B2班 エリア	
トチノキ 21本	クマキ 10本	クマキ 10本	エノキ 21本



## 新たな春の訪れの中、 4年ぶりの植樹祭

J-POWER グループフォレストクラブ

高尾の森づくりの会のみなさま、植樹祭へのご招待ありがとうございました。未だコロナ禍が終息したとは言えないものの、ひと時でもマスクを外した屋外で貴会のみなさんと新たな春の訪れを感じることができ、参加者一同、大変に喜ばしい1日となりました。

新型コロナウイルスの世界的流行により、J-POWER グループフォレストクラブとしては4年ぶりに参加させていただきました。体力の衰えを不安に思う者もいましたが、何よりも貴会のみなさまが元気に活動される姿に奮い立ち、“植樹した苗木に強く育ってほしい”との願いを自身にも課すような気持ちになりました。

また、ベース小屋では天ぷらや豚汁などを振舞っていただきありがとうございました。事務局の方は「ビールは早いもの勝ち!」と言われていたものの、後発組が戻らないなか少々気が引ける思い……。でしたが、4月とは思えない暑いくらいの陽光に背中を押されて手を伸ばしてしまいました。なかには初めて食した“胡桃の天ぷら”もあり、つい食べ過ぎて



J-POWER の皆さん



しまいました。(下山後、当クラブでの2次会では料理を食べることができず、お土産で持ち帰ったくらいでした。)

貴会創設1年後から、当クラブも共に森林保全へ取り組み21年が経過しました。私たちは限定的なお手伝いに留まりますが、高尾の森でみなさんの活動を共に体験することができ、地球環境への想いを再確認する貴重な機会となっています。

今後も高尾の森づくりの会のみなさんと植樹した苗木を見守っていければと思います。

## 豊かな森になることを期待して

コニカミノルタ(株) 高橋豊



コニカミノルタの皆さん



コニカミノルタからは5名で参加させていただきました。快晴で絶好のハイキング日和の中、受付までは沢沿いの道となっており、清々しい気分で歩くことができました。受付後、森に入り植樹地へ移動したのですが、移動する際の山道は森づくりの会の皆さんが間伐材等を利用し作られたとのことで比較的歩き易い道となっておりました。

30分ほど歩き植樹地へ到着。こちらは立つのもままならない急斜面でした。記念写真を撮影の後にトチノキを20

本ほど植樹いたしました。地面は適度に柔らかく、素人でも植えることができました。トチノキの苗はかなり細く、一見すると枝の切れ端と思うほどでしたが、この木がやがて大きな木になると考えると感慨深いものがあります。森の多様性のため10種類ほどの樹木が植樹されているとのことでした。一方で無事に育つ木はどれだけ手をかけても2割ほどということで、森を育てることの難しさも実感しました。

植樹が終わり森づくりの会ベース小屋へ移動したところ、心づくしのごちそう、ビール、日本酒が待っており大変楽しい時間を過ごすことができました。

今回、かなりの急斜面での作業だったのですが高尾の森づくりの会の方々がかなり安全に配慮してくださっていたのか、特に危険は感じませんでした。またこういった難所を、植樹地として整備にするのは大変だったかと思います。高尾の森づくりの会の皆さんが全て手弁当で作業されているとの事にて、頭が下がる思いです。これからも高尾の森がさらに豊かな森になるよう、私たちも微力ながらご協力させていただければと思います。

## 小下沢の森の

連載 第1回

## 樹木たち

高尾の森づくりの会は、高尾小下沢国有林で2001年から15年間に13.5haのスギ、ヒノキ針葉樹林のギャップ地とその樹下に約40種、18,000本の落葉広葉樹の苗木を植えました。今ではスギ、ヒノキに劣らず大きく育ち、立派な針広混交林が出来上がりつつあります。その後、新たな植栽地の確保が困難となり、また新型コロナウイルスの蔓延による活動の停滞や小下沢林道の修復の影響を受け、植樹活動は低調となってしまいました。しかし、現在はこれらの支障が徐々に解消されつつあり、これから再び活発な植樹活動が期待されるに至っています。

最近入会された方や、樹木について今一度勉強したいという方が増えてきているので、これまで植樹した木の特徴やなぜそこにその樹種を植えたのか、それらが今どのように育っているかなどを振り返り、今後の苗木の選定、植樹場所作りやそれらの保育管理のために役立つ情報としてまとめてみました。しかし、限られた紙面だけではとても伝えきれない憶えきれないため、今後フィールドに出て紙面で述べたことを確認する機会を持ちたいと思います。

## 苗木の樹種選定

植樹を始めたころ、高尾小下沢国有林はスギ、ヒノキが80%を占有する森でした。このため自然林であった昔の面影をたどることは困難でした。しかしながら、尾根や溪畔には災害から山を守るために自然林が伐らないまま残されており、そこに育っている樹木からその山の在来種を推測することができます。小下沢ではヤマザクラ、ウワミズザクラ、カツラ、ケヤキ、イタヤカエデ、モミ、アカマツ、イヌシデ、クマシデ、ホオノキ、ハリギリなどの巨木が見られます。また、植樹のためにギャップ地を切り開くと、雑草と一緒に埋没種子が発芽し、イロハモミジやエンコウカエデなど以前生えていた樹種を知ることができます。小下沢国有林は高尾山の冷温帯域に位置するため、これらの中から落葉広葉樹を中心に選定しています。さらに一つの試みとして、針葉樹のコメツガとカヤを入れています。このほか、標高のもう少し高いところの樹木であるミズナラ、サワグルミや、寒冷期の生き残りとして高尾山にも自生するブナ、イヌブナ

も植樹しました。これらの苗木は苗木栽培業者から購入しますが、一時期高尾山で採取した樹木の種子を自家栽培し、購入苗木を補っていたこともあります。

これまでの植樹環境と現在のものとで大きく異なる点にシカの存在があります。これまで植樹した苗木は小下沢国有林にシカが現れ、繁殖する前に樹木に生長しました。したがって、シカの好みは選定要因としては一切考慮していませんでした。これからの植樹には、防護策と同時にシカの好みについても研究していく必要があると思われる。

## 樹木特性と生育状況

植樹苗木の一般的性質とそれらの小下沢での生育状況について、21種の樹木を4回に分けて説明することとします。(カッコ内は植樹本数)

ヤマザクラの花 (1X 植栽地)



1

## ヤマザクラ (1,594)

【バラ科】

- ◆日本の野生のサクラの代表
- ◆小下沢国有林では尾根に高木がたくさん残っており、当会では最も力を入れて植樹した苗木
- ◆開花と展葉が同時の樹種
- ◆生長は早く数年でお花見が楽しめる
- ◆台風や雪害による倒木が多い
- ◆併せてカスミザクラ (660)、エドヒガン (180) なども植樹してきた



満開のカスミザクラ (05E 植栽地)





2

## ウワミズザクラ (680) 【バラ科】

- ◆サクラとはいえ穂状に花が多数つき全く異なる
- ◆黒く熟した実は果実酒に用いられ、鳥類やクマのご馳走となる
- ◆材は堅く緻密なため漆器の木地、印材、版木、建築材などになる
- ◆樹皮は桜皮細工や染料に用いられる
- ◆小下沢やザリクボ沢の溪畔に巨木が多い

ウワミズザクラの花



(画像出典 「森と水の郷あきた」 HP より)

アカシデの林 (05E 植栽地)



4

## アカシデ (270) 【カバノキ科】

- ◆全国の山地～丘陵地に分布し庭木や公園樹にも用いられる
- ◆小下沢にはイヌシデやクマシデが多いが、これらと比べるとアカシデは小型の高木
- ◆カバノキ科の樹木は秋にも色付かない木が多いが、アカシデやクマシデは黄色～橙色に色づく

コナラの新芽



3

## コナラ (891) 【ブナ科】

- ◆都有林の尾根や 08 植栽地への CD ルートで巨木が見られる
- ◆早春の銀色の芽吹きが美しい
- ◆ドングリは哺乳類、鳥類の格好の餌となる
- ◆近年ナラ枯れ病が蔓延し枯死木が増えている
- ◆中位木になるまでに害虫に侵されやすい
- ◆同科、同属のミズナラも植えているが、この樹種は本州では標高 1000m の山地に出現するため、小下沢では生育の試みとなる

ホオノキの林 (05E 植栽地)



5

## ホオノキ (590) 【モクレン科】

- ◆白亜紀の生き残りといわれる樹種
- ◆モクレン科の大きく、美しく、香りのよい花は高木の先端で咲くため鑑賞するのが難しい
- ◆自然木は東 (アズマ) 林道沿いに多い
- ◆小下沢では苗木の活着、成長は良好

ホオノキの花





# 2月活動日記



木下沢梅林

- 2月の作業というと雪のことが多いが、今年も天気が期待に应运てくれたのか、定例作業前日に降雪があった。
- 雪の中の作業となったが、晴天の中、新たな作業エリアである板当の作業道整備と4月の植樹祭に向けた都立林の植栽地の地拵えが行われた。



雪の中よく来てくれました



準備運動は念入りに



A班 出発前



B班 出発前



滑って下れない・・・

## もくじ

「春の植樹祭」実施報告……………	02
植樹祭に参加して……………	03
【連載】小下沢の森の樹木たち…	04
2月活動日記……………	06
3月活動日記……………	07
4月活動日記……………	08
【連載】安全作業のすすめ……………	09
新会員紹介……………	10
事務局からのお知らせ……………	12



板当エリアでの作業道整備



# 3月活動日記

- 3月27日から4月2日まで高尾599ミュージアムで「高尾の森と生き物たち展」を開催。定点カメラで撮影した動物映像の上映や木工品を展示。中でも若い家族で楽しめるヒノキの積み木やパズルコーナーが大人気でした！
- 2月に引き続き板当エリアでの作業道整備と218林班で間伐が行われた。



パズルに挑戦



積み木がたあ〜くさん！



A班 出発前



B班 板当作業終了後



218 林班にて



下山後のお楽しみ、ゴチ！





# 4月活動日記

●ベースへの小下沢林道には春を知らせる植物があちこちに。そして途中の水たまりでは、今年もたくさんのオタマジャクシが元気に泳いでいた。

●定例作業では植樹祭を翌日に控え、植栽地の最終整備と植樹祭のリハーサルが行われた。

●道具小屋の道具の棚卸・整備、小屋の清掃などが行われた。



春の知らせ



苗木にあげる水汲み



これ絡んで取れないんですよ…



篠竹差し





連載

# 安全作業の すすめ……その2

ハチ刺傷事故は7月～10月の間で、その大半が下草刈りや道路脇の藪払い作業で起きています。刺すハチの中でも、スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチといった社会性のハチで、巣を刺激することで働きバチが集団で攻撃し、人などほ乳類への毒性が強いのが特徴です。

## ハチに刺されないためには

### ◎まずは身だしなみ

ハチは黒い色を敵の急所と認識しています。このため黒色の服装は避けましょう。また、一部の香料にはハチ誘引物質が含まれていることがあり、ハチを引き寄せる結果になります。

### ◎ハチに遭遇した場合

ハチを刺激しない行動をとるようにします。単独で餌を探しているハチであれば、こちらが急な動きや手で払うことをしなければ刺されることはありません。目の前まで来てもじっと我慢します。しかし、突っかかってきたり、大顎をカチカチ鳴らし興奮したハチなら、姿勢を低くしてゆっくり遠ざかりましょう。

また、下草刈り等で下ばかり見ていると、枝に付いたハチの巣を見落とします。常に周囲の確認を行いながら作業を進めてください。

## 運悪く刺されてしまった場合は

まず、刺されたことを周囲に伝えましょう。これは自分の身を守ることと、周りの仲間を守ることにになります。

次にポイズンリムーバーで毒を吸い出します。毒を全て吸い出せる訳ではありませんが、吸い出した分だけ症状は緩和されます。その後、患部を洗浄して冷やします。



毒の吸い出し



アシナガバチの巣



オオスズメバチ刺傷



ポイズンリムーバー

## 刺された人を処置する人へのお願い

ハチの毒は低分子タンパクです。アンモニ水に効能はありません。このハチ毒が一番やっかいなのがアレルギーの全身症状（アナフィラキシーショック）です。症状が重い場合、刺傷後15分で死に至ることもあります。このため、処置する方はご本人から、これまでに刺されたことがあるか、アナフィラキシーショックを起こしたことがあるか、治療薬エピペンを持っているかを確認してください。エピペンを持っている場合は、迷わず打つことを促してください（エピペンはセルフインジェクションなのでご自分で打てます）。

もし、目眩、吐き気、じんましん等の症状が現れたらアナフィラキシーショックを疑い、直ぐさま救急搬送をおこなってください。搬送中に心肺停止となった場合は心肺蘇生を実施してください。

★6月の定例活動後、会で所有しているポイズンリムーバーを使った応急処置講座を開催します。参加希望の方は各班リーダーもしくは森中(hiroharu.morinaka@gmail.com)まで。

★7月にハチ対策講座開催を検討しています。こちらは改めて案内いたします。

★KeyWord：# アナフィラキシーショック # スズメバチ # アシナガバチ # エピペン # ポイズンリムーバー



### 森づくりを通じて SDGs に取り組みます

生駒アヤ子

(株)トヨタ カスタマイジング&ディベロップメント(TCD)と申します。TCD は、代表取締役社長 稲垣のもとトヨタグループの一員として、エアロパーツなどの用品、救急車などの架装車、モータースポーツの事業領域で特色あるクルマ作りをしている会社です。

高尾の森づくりの会 大塚代表と弊社 稲垣は大学のワンダーフォーゲル部でお仲間であったことから、この度、高尾の森づくりの会に入会させていただくことになりました。

稲垣と私は、社内の山登り好きの集まりで年に何度か山登をしており、社内で稲垣と山登り計画をすると、稲垣は「もう歳だから・・・」と弱気の言葉も多々あるのですが、4月9日の植樹祭に参加させていただき、森づくりの会で大学のお仲間や大先輩とお会いして、皆さんの元気に圧倒され

多くのパワーをいただいたようで、今年の夏は社内のメンバーと白馬の山を目指したいと考えています。

植樹祭は稲垣と私の2名で参加させていただきましたが、懇親会では美味しい豚汁や天ぷらなどなど色々ご馳走になり、またバス停までの帰路では花の名前や葉の名称などを教えていただき、大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。3年後5年後に自分達が植えたケヤキたちの成長を楽しみにしたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

TCD 御在所岳登山にて



竹内英樹です

### 森が好き

子供のころ“探検”が流行っていて、友達と一緒によく森に遊びに行き、基地を作ったり、クワガタやカブトムシを捕まえるのに夢中でした。木々に囲まれ、木漏れ日が差し込み、湧き水や湿った土や苔、澄んだ空気といった自然との関りがあって今の自分があるように思います。出身は愛知県の知多半島で、田畑に囲まれ、近くに海もある田舎で育ちました。今は人との関わりを楽しみながら東京で暮らしていますが、高尾の森は私にとってオアシスで、行くだけでワクワクします。

約2年前から法人会員として何度か参加させていただき、森の中で周りの自然と会話し、周りの(指導して下さる)方々と会話し、時間を過ごすことで元気をもらえること、そして、子供たちにも同じ気持ち、自然のやさしさ、やすらぎを感じてほしい思いから、このたび個人会員として入会させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。



猪股和子です

### この笑顔と元気は 何処から?.....

皆様、初めまして。猪股和子と申します。

3月の初心者研修でまず、作業道から作る事に驚き、4月は山菜採りの喜びと下山の大変さに膝が笑い、植樹祭では作業小屋に戻られた皆様の力強い笑顔と食欲に圧倒されました。手入れ前後の山の違い、鉋、鋸の扱い、植樹を守る年月の長さ、山菜、鳥の話。豊かな山の知識体験を持った方々の話は、初めて聞くこと事ばかりで興味深く実に楽しい。高尾山ビジターセンターで高尾の森づくりの会を知ってほんとによかったと思いました。

後の世代に高尾の森を残す手伝いがしたいと参加をしたのですが、現実には二丁差しを腰に据えると足元がふらつき、作業小屋に来るだけで達成したような気分になる始末。これから、普段遊ばせている手足頭を鍛え直していきたいです。そして、いつか皆さんみたいに力強い笑顔で山仕事をする人になれるように! どうぞ宜しくお願い致します!





丹治泰子です



## 山のパワーを 次世代の子供たちへ

私は6年ほど前に大病を患い、リハビリのために始めた山登りやトレランで山から沢山のパワーをもらって今ではとても元気になりました。お蔭様でもっと挑戦したいという意欲も湧いて、山に何らかの恩返しをしたいという願いを抱いておりました。そんな時に山仲間のKさんの紹介で「高尾の森づくりの会」へ参加させていただきました。高尾山は我が家から近く小さな頃から家族と通い、また小学校の遠足などでも大変お世話になっている山なので運命を感じます。

参加させていただいて、斜面での作業の困難さや道具を使いこなすための技術の習得、危険から回避するための経験の積み重ねの必要性等、学びの繰り返しが必要であると感じています。

私も早くお役に立てるように、先輩の皆様から多くを学びながら少しずつでも経験を積んでいきたいと思います。そして次の世代の子供たちへ私が受けたような山々のもつパワーを繋いでいけたら良いな。と、心から願っています。

山野英理子です



## 9年目の新会員です

皆さん、こんにちは、4月より新会員となりました山野です。といっても法人会員で以前から皆さんと一緒に活動していたのでちょっと照れくさいです。

高尾の森づくりの会とのご縁は、2014年11月からで8年5ヶ月になります。当時、ちょうど山に行きたいと思い始めた時だったので山に行けるならと気楽に参加したのがきっかけです。そして初回参加時の講習を受けた後には「これかずっと参加するなら」と道具小屋の前で販売していた二丁差しを購入した事を覚えています。それから毎月、いろいろな作業場にアドベンチャールートで行き、大変だけどやりがいのある作業と会員の方との会話が楽しくて参加し続けています。また、四季折々の高尾の表情を体感できるのもいいですね。

まだまだ未熟者ですがこれからも宜しくお願い致します。

溝畑武生です



## せっかく入会したんですが……

令和5年2月に入会した溝畑です。入会理由は、山の整備に関わりたからでした。10年ほど前に八王子に住み始め、季節の都度、高尾山周辺を散策している私は、ある日、高尾山口駅から南へ城山・津久井湖方面から高尾山を目指していました。その道中、「高尾グリーンセンター」なる施設を発見しました。調べたところ、山整備のボランティアの募集案内があり、参加したいと思った私は、すぐにHPの連絡欄から入会申し込みをしました。その後、しばらくして、事務局の仁藤さんから電話とメール連絡があり、1月の体験入隊の説明を受け、集合場所が小下沢林道沿いにある作業小屋と言われました。なんか場所が違うなと思いつつ体験作業に参加し、楽しいと感じ、入会したのが「高尾の森づくりの会」でした。

縁あって入会しましたが、直後の今春から北海道に転勤となりました。帰省の際には作業に行きます。その際はよろしくお願いします！

石川敦子です



## 法人から個人へ、 気持ちを新たに

4月から個人会員になりました石川敦子です。山のボランティア作業に興味を持ち、10年以上前から法人会員として活動に参加し、途中から道具班も担当していましたが、頑なに個人会員になっていませんでした。もしかしたら、今まで大きな顔で活動していたので、個人会員と思われた方もいるかもしれませんね。

高尾の森づくりの活動は、現場までの移動や急な斜面での作業など大変な事もありますが、皆さんと一緒にワイワイしながらの活動が楽しいこともあり、今回の会社の活動中止に伴って「やめる」という選択肢は無く、個人会員に切り替えました。切り替えにより何が変わる訳ではないと思いますが、気持ちを新たに頑張ります。

山作業は奥が深く、まだ理解していないことも多いので、引き続きいろいろと教えてもらいたいです。

これからも宜しくお願いします。



## 活動記録

2/4	板当道具小屋設置臨時作業 (12名)
2/11	定例作業 (会員41名、法人2名)
2/25	都有林プロジェクト (8名)
3/11	定例作業 (会員65名、法人5名、体験1名)
3/25	都有林プロジェクト (雨天のため中止)
3/27	599ミュージアム展示会
~4/2	(来場者978名、会員延べ43名)
4/8	定例作業 (会員63名、体験1名)
4/9	2023年植樹祭 (会員 54名、法人37名、一般4名)
4/16	京王親子森林体験スクール 1回目 (親子37名、京王2名、会員25名)
4/22	都有林プロジェクト (7名)

## 会員動向

## 入会：ようこそ

石川敦子さん、猪股和子さん、竹内秀樹さん、葉山実さん、溝畑武生さん、山野英理子さん、横井俊さん、専門学校トヨタ東京自動車大学校さん (法人)、  
(株)トヨタカスタマイジング&ディベロップメントさん (法人)

## 退会：お疲れ様でした

関根豊さん、渡辺直さん、メタウォーター(株)さん (法人)

## 活動実績と予定

5/13	定例作業
5/14	滋慶学園TCA 森林体験教室 (学生95名、会員21名、その他7名)
5/21	京王親子森林体験スクール 2回目
5/27	都有林プロジェクト
6/4	八王子環境フェスティバル
6/10	定例作業
6/11	京王親子森林体験スクール 3回目
6/17	2023年 総会
6/24	都有林プロジェクト
7/8	定例作業

## 連絡事項

- 2023 年度会費未納者は至急ゆうちょ払込で送金ください。詳細は会報誌 88 号を参照ください。
- 林道第1ゲート西側 50m 区間の復旧工事完了は延期になり6月末となりました。歩行通行は可能ですが十分注意してください。
- 板当の新たな作業エリアのための道具小屋が2月に完成しました。



## 横川さん「卒寿」おめでとうございます

高尾の森通信表紙の挿絵の作者であり、横川コレクションでお馴染みの横川さんが90歳を迎えられ、有志で卒寿のお祝いが行われました。今でも毎週高尾の森に通われていて、展示会なども欠かさず参加されている横川さん、やはりこれが元気の秘訣でしょうか。いつまでもお元気で。



大塚代表の活動で見つけた  
ちょっぴりいい話

4/30(日)に予定していた道具小屋の棚卸は、雨天予報だったため急きょ晴天予報の前日4/29(土)に前倒しで実施しました。これは機械班が4/29に予定していたチェーンソー講習を中止して道具班に開催日を譲ってくれた様です。阿吽の呼吸の両班の連携と、日程を譲ってくれた機械班の臨機応変な対応に心ひそかに感動しました。

## 幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

## ◆ 2 月

- 協議事項 植樹祭準備状況、2023年度計画案、他
- 報告事項 JAC 自然保護委員会/全国大会、八王子市環境教育プログラムの進捗報告、他
- 連絡事項 京王親子スクール、八王子環境フェスティバル、他

## ◆ 3 月

- 報告事項 林道復旧工事の交通規制、総会準備、他

## ◆ 4 月

- 協議事項 植樹祭開催要綱について
- 報告事項 都有林新規植栽地申請、森林管理署への活動実績・計画報告、他

## 編集後記



毎年恒例のゴールデンウィークの春山は東北の「鳥海山」に行ってきました。山頂直前の外輪山の内側は壁一面ビッシリとエビのしっぽに覆われ、感動的な景色でした。ところで今回の春山は、お気に入りのサングラスデビュー。決まりましたでしょうか?(大島徹)

